

エミール・ギメによるプロムナード・ジャポネーズ

エミール・ギメは19世紀フランスの商人、旅行者、美術の専門家、コレクターであり、パリの今日の国立アジア美術館（ギメ美術館）の前身である宗教博物館をリヨンに設立しました。

高德院を訪れた後、ギメは周囲の樹木の中から「青銅の丘」ともいえるような大仏の頭部について説明しました。彼は、巨大な仏像は、西洋人がよく考えていた釈迦牟尼仏ではなく、大日如来の姿をした盧遮那仏を表していると述べました。彼はこの後者の点で間違っていました。なぜなら大仏は現在、仏教徒によって阿弥陀仏として普遍的に認識されているからです。彼は、画像の台座に内部への入り口がついていて内部に入ることができると述べています。彼は続けて、あらゆる場所、あらゆる高さのところに仏が数多く描かれたり、置かれたりしていると述べています。しかし、これは今日は真実ではありません。